

3 評価の方法

3-1 見直し方法・範囲の検討

レッドリストの更新方法について、有識者で作業部会をつくり、見直し範囲、方法について検討を行いました。この作業部会で検討した結果については次のとおりです。

【有識者作業部会参加者】（50音順）

石川慎吾、鴻上泰、坂本彰、寺峰孜、堀内和美、山岡和興

事務局：松本満夫、黒岩宣仁、藤川和美、前田綾子

◎協議結果

検討対象とするか否かについては、5市町村に生育しているか否かを基準としました。これは2000年の高知県レッドデータブック〔植物編〕（高知県 2000、以下「高知県RDB」とする）作成時、「高知県の植生と植物相」（山中二男 1978、以下「山中目録」とする）の記載において5市町村未満で生育する種類を調査検討対象種として選出したためです。協議結果は次のとおりです。

なお、検討対象種が5市町村に生育するか否かについての基礎情報は、今回の改訂においては採集された押し葉標本に基づくものであり、高知県RDBでは山中目録による記録に基づいています。

（1）更新・検討の範囲について

ア 基本的には高知県植物誌の調査で得られた情報の範囲で見直しを行う。

イ 新たにレッドリストに追加することを検討する種を以下のものとする。

（ア）高知県新産種

（イ）高知県RDBで絶滅（EX）とされたが、植物誌調査で標本が得られたもの

（ウ）高知県RDB準絶滅危惧（NT）、情報不足（DD）に評価されていたもの

（エ）高知県RDBに記載されていない種で、植物誌調査で5市町村未満でしか標本が採集されなかったもの

ウ 高知県RDBのリストから除外を検討する種を以下のものとする。

（ア）高知県RDBに記載されており、植物誌調査において5市町村以上で標本が採集されたもの

（2）検討する単位の「分類群」

ア 品種および不稔の一代雑種を除く。ただし、県内に品種に分類される分類群のみが生育しているもの、品種及び雑種で推定片親がRDB対象種であるものは検討の対象とする。

イ シダ類については、専門グループで検討する。

ウ 高知県RDBにおける分類や採用された和名に対して高知県植物誌で分類や和名が変更されたものは、高知県植物誌の分類に沿って評価を行う。

（3）評価基準について

高知県RDBでは環境省の基準に従って評価を行ったため、環境省のレッドリスト改訂（2007）での評価基準を利用しました。（A～Eの要件を使用）

3-2 更新検討対象種の条件

更新の検討対象種については、下記のとおりとしました。

【シダ植物】

■除外検討種

- ① 高知県RDBの絶滅危惧種(CR、EN、VU)で、かつ高知県植物誌調査で5市町村以上標本が採集された種類

■追加検討種

- ① 高知県植物誌調査で新たに確認された種類
- ② 高知県RDBで絶滅危惧種になっておらず、かつ高知県植物誌調査で標本が4市町村以下で採集された種類
- ③ 記録はあるが、高知県植物誌調査で標本が採集されなかった種類

■ランク変更検討種

- ① 高知県RDBでEXであったが、高知県植物誌調査で標本が採集された種類
- ② 高知県RDBでEW、NT、DDの種類
- ③ 高知県RDBの絶滅危惧種で、高知県植物誌調査で標本が採集されなかった種類

【種子植物】

■除外検討種

- ① 高知県RDBの絶滅危惧種(CR、EN、VU)で、かつ高知県植物誌調査で5市町村以上から標本が採集された種類

■追加検討種

- ① 高知県植物誌調査で新たに確認された種類
- ② 高知県RDBで絶滅危惧種になっておらず、かつ高知県植物誌調査で4市町村以下でしか標本が採集されなかった種類
- ③ 記録はあるが、高知県植物誌調査で標本が採集されなかった種類

■ランク変更検討種

- ① 高知県RDBでEXであったが、高知県植物誌調査で標本が採集された種類
- ② 高知県RDBでNT、DDの種類
- ③ 高知県RDBの絶滅危惧種で、高知県植物誌調査で標本が採集されなかった種類

3-3 評価の方法

更新検討対象種について、環境省のレッドリスト改訂（2007）での評価基準（別紙2）を利用し、シダ植物作業部会及び種子植物作業部会でランク評価を行いました。

絶滅（EX）と情報不足（DD）の定義については、リストを検討していく上で条件を詳細に決めていきました。本更新では、下記の項目に当てはまるものについて、それぞれ絶滅（EX）、情報不足（DD）としました。なお、高知県RDBでは「絶滅（EX）」とされていたが、過去50年以内に標本が採集されたことが確認できたものについては、絶滅危惧IA類（CR）に変更しました。

【絶滅（EX）】

- ① 高知県植物誌調査で標本が採集されなかった種類で、過去50年以上標本が採集されていない種類
- ② 「山中目録」での記載があるが、「山中目録」の標本が未確認あるいは標本採集をしているかどうか不明の場合、及び50年以上前の標本を引用している場合

【情報不足（DD）】

- ① 高知県植物誌調査で標本が採集されているが、現状について情報がないもの
- ② 高知県植物誌で「検討を要する」と記載のあるもの
- ③ 近縁種と区別が困難で、高知県植物誌調査で認識して採集されていないもの
- ④ 最後の標本が採集されてから50年以上が経過しているがその後記録があり、高知県RDBで絶滅危惧種に指定されていないもの
- ⑤ 過去に標本は採集されているが、現状不明あるいは個体数について情報不足のもの
- ⑥ 記録のみで、近年確認されておらず現状不明のもの

3-4 評価の経過

【検討リストへの意見収集と聞き取り調査】

有識者作業部会の参加者から意見を収集し、更に地域別、種ごとの標本採集者などに聞き取り調査を実施しました。

※協力者一覧 (50 音順 敬称略)

石川慎吾、稲垣典年、宇田英一、角野康郎、黒岩宣仁、鴻上泰、小林史郎、酒井泰一、坂本彰、佐田博子、澤良木庄一、竹内久宜、田城光子、田城松幸、田辺由紀、谷本隆司、寺峰孜、中平勝也、福原宏、藤川和美、古沢政光、細川公子、堀内和美、松本満夫、山岡和興、山崎憲男、山下幸利

【ランク評価】

<シダ植物作業部会>

シダ植物については、2回の作業部会を開催しました。

シダ植物については、2002年に高知県のシダ植物を網羅した「高知県のシダ植物」(山岡 2002)が発行されていることなどから、県内の状況把握が全般的に進んでいるため、検討種リストをもとに全種について検討を行いました。ランク評価は環境省のレッドリスト改訂(2007)での評価基準(別紙2)に基づいて行いました。

<種子植物作業部会>

聞き取り調査の結果をもとに、有識者作業部会を5回にわたって開催しました。

第二回～第四回では案をもとに個々の種について、標本情報と協力者からの自生地情報が検討され、環境省のレッドリスト改訂(2007)での評価基準(別紙2)に基づきランク評価を行いました。

第四回の作業部会終了後、それまでの検討・意見聴取をもとに第二案を作成し、これをもとに、第五回の作業部会で最終原案を検討しました。なお、最終的に検討を行った種類は、前述の3-2「更新検討対象種の条件」の各項目に当てはまるものとなりました。